令和7年度 諏訪市総合計画外部検証委員会 会議録

○ 日 時

令和7年7月9日（水）午前10時30分～午後3時35分

○ 会 場

諏訪市役所 3階 302会議室

○ 出席者

<諏訪市総合計画外部検証委員会委員>

宮下和昭委員、牛山はるみ委員、山村宜男委員、宮坂佐知子委員、
山谷恭博委員、村上智仙委員、宮沢幸一委員、藤森洋子委員、
武田なつ子委員、山岸絵美理委員、北條浩之委員

<事務局>

前田企画部長、柳平企画政策課長、堀川企画政策係長、
藤森企画政策係主査、北澤企画政策係主任

<担当課>

藤森地域戦略・男女共同参画課長、高橋地域戦略係長、宮坂高齢者福祉課
長、玉井高齢者福祉係長、小林生涯学習課長、茅野図書館長、新村建設課
長、蟹江建設係長、長谷建設係主査

○ 欠席者

<諏訪市PTA 連合会>

土屋美奈恵委員

○ 会議概要

- ・直近の人口動態について報告
- ・デジタル田園都市国家構想交付金事業について、外部検証委員会としての効果検証結果を確定
- ・第六次諏訪市総合計画に基づいて実施した事業について、外部検証委員会としての効果検証結果を確定

○ 会議録

1 開会

(柳平企画政策課長)

- ・これより令和7年度諏訪市総合計画外部検証委員会を開催する。

2 市長挨拶

(金子市長)

- ・私は市長に就任して丸10年経つが、外部検証委員会というのは、私が1期目に就任をしたときから、マニフェストに掲げたもので外部の方から、検証をいただくという、大変大事な手続きだということで、取り組んでいる。
- ・この委員会は、令和5年に新たな組織として立ち上げ、今年度が3回目の開催となる。
- ・新しく委員となっていただいた方、以前より引き続きお受けいただいている方もよろしくお願いをしたい。
- ・この効果検証は、全ての諏訪市の事業を包括的にまとめている、諏訪市総合計画の進捗状況をより客観的な立場視点から見ていただき、市民に対する行政の説明責任を徹底し、市民本位の効率的で質の高い行政を実現するために不可欠なものと認識している。
- ・国のデジタル田園都市国家構想交付金を受けて実施した事業の検証についても午前の協議事項の中で行っていただくこととなる。
- ・対象事業が多岐にわたるため、福祉や教育、防災等様々な分野から、委員の皆様を委嘱させていただいている。
- ・ぜひ様々な視点から市が実施した事業について忌憚のないご意見をいただき、今後の事業実施に活かしていきたい。

3 委嘱状交付・4 自己紹介

(柳平企画政策課長)

- ・新たな任期の初めての委員会となるため、委員の皆様から一言ずつ自己紹介をいただきたい。
- ・会議時間短縮のため、委嘱状は机上配付とさせていただいていることご容赦いただきたい。

(※各委員自己紹介後に事務局自己紹介)

5 委員長選出・委員長挨拶

(柳平企画政策課長)

・市総合計画効果検証実施要綱第11条の規定に基づき、委員長副委員長の選出を行いたい。

・委員の互選により選出となっているが、ここで事務局の腹案をお示ししてご承認いただく形でよろしいか。

(※異議なしの声)

・それでは事務局の案として、委員長に長野県建築士会諏訪支部の宮坂委員、副委員長に諏訪地域振興局企画振興課の北條委員にお願いしたいと思うがよろしいか？

(※異議なしの声)

(宮坂委員長)

・この地域が本当に、より良い地域になり全国的にもここに住みたいと思われるまちになっていくことを望んでいる。本日は進行をスムーズに行えるように、皆様のご協力をお願いしたい。

(北條副委員長)

・諏訪地域振興局には、この4月から勤務している。少しでも諏訪市の政策に貢献できるように、また本日は円滑な議事進行ができればと思う。

6 報告事項 直近の人口動態について

(堀川企画政策係長)

※資料1に基づき説明

(I 委員)

・私は地方自治論を専門としているが、19～20歳の若者を日頃から指導している立場からも、彼らの発言を聞いていると資料と非常に合致するような部分もあると感じた。

・学生の中には諏訪の出身で卒業して諏訪に戻る者もいるが、戻らないという者もいる。その理由を聞くと、圧倒的に企業の数が違うという意見があり、就職のことを考えると東京圏とは比較にならないということを知る。若者は就職を考えた時に地元に戻らないことを選択することがある。

・資料の⑪諏訪市の転入・転出の状況を見ると25歳から29歳の子たちが大きくマイナスになっており、昨今の雇用の良い状況を考えるとますますこの傾向が強くなっていくのではないかと感じた。

7 協議事項

(1) デジタル田園都市国家構想 交付金事業の効果検証 について

事業1 AI オンデマンド交通システム導入事業

〈資料3に基づき担当課より説明〉

(B 委員)

・私はチョイソコかりんちゃん（以下、チョイソコという。）を利用する立場ではなく、自家用車を普段使っているためチョイソコを利用するのはまだ先の話と思っているが、身近な知り合いと話をした時に、登録はしたけどなかなか予約することができなと言っていた。やはりスマホやWeb予約というのは、高齢者にとってとても抵抗があると感じている。出前講座も実施していると聞いたが、まず利用するまでに大きな壁があるということを実感した。

・良い評価があったとのことだが、実際に利用する方がどこで困って、どこを改善して欲しいと思っているのかをもう少し丁寧に聞いてもらいたい。

・利用を進めている職員は、実際に利用しているのか。職員で使った実績や感想があれば伺いたい。

(担当課)

・チョイソコは電話でも予約はできるが、実際に出前講座等に行っても、そもそも電話やスマホを持っていない方が居るというのも聞いている。自分の家から目的地までの予約は自分の家の電話でできるが、公衆電話の数も今は少なくなっているため、帰りの予約をする際に、不便さを感じるという意見も聞いている。

・Web予約の方が電話よりも利便性が高いため、ぜひ広めたいと考えているが、操作の面を含めしっかりと定着させることが課題であると感じている。去年はスマホ教室で実際の操作説明も行った。説明会等で、隣でじっくり教えながら丁寧に進めていきたい。

・実際の職員の利用についても、通勤の際に実際使った意見等も聞きながら現在進めている。実際使ってみて初めて分かることであるため、アンケート調査でもしっかりと利用者の意見を吸い上げて集約し、しっかりと反映させていけるよう努めていく。

(F 委員)

・KPI のアウトカム指標（成果指標）で高齢者の免許返納者数という目標があるが、

目標値の 125 に対して実績が 175 で 140%の目標を達成度になっている。ここでこの KPI を定めること自体は良いとは思いますが、この KPI を定める以上は、チョイソコが要因となつての高齢者による免許の返納者数であるという因果関係が認められる必要があると思う。何らかの相関関係はあるかもしれないが、実際チョイソコがあったから免許を返納した方がどの程度居たのか、データがあれば示してもらいたい。本来はこの KPI で採用するのであれば、因果関係が分かるものを採用すべきなのかなと個人的には考える。

(担当課)

・チョイソコがあるから返納したというデータは特段取ってない。免許を返納することによって、自分の移動手段が無くなった方のために公共交通を使っただきたいということで、免許返納されて手続きに来られた方に今、かりんちゃんバスの回数券を 12 枚つづりで配布している。これを使って次なる交通移動手段として公共交通の利用を勧めるという意味もあってこの成果指標としている。

(F 委員)

・そういった意味だとすると、このデマンド交通の成果という形ではなく、デマンド交通の必要性というものを定義すべき KPI なのかなと個人的には思う。

(担当課)

・確かに今回の免許返納数の内で、実際チョイソコがあったから切り替えたという人を本来指標にすべきかと思う。この数字の中には、例えば高齢化が進むことに伴って増えた数も混ざっており、ピンポイントで連動するものではない。今後例えば免許返納時にそういったところも聞き取りの中で確認をしていきたい。

(A 委員)

・説明を聞いて思ったが、免許返納者を対象に AI オンデマンドの利用についての Web やスマホを使った利用の仕方等をこの指標の中に取り込んでみたらどうか。そうすることで免許返納者の数そのものが、実際に AI オンデマンドを利用する方へ向かっていく、そういう効果検証というかそれに生かせばいいのではないかと思った。

(担当課)

・免許返納者数の数字は警察から 65 歳以上の返納者ということでもらっている。実際この内でどのぐらいの方がチョイソコに登録をして、利用に繋がっているのかということもしっかり追いたいと考えている。

(C 委員)

・国の交付金は単年度であるとのことだが、事業としては来年度以降も予算がついて継続していくのか。

(担当課)

・継続して実施していく予定であり、単年度で終わる事業ではない。

(C 委員)

・大きな事業費がかかっている。6年度の利用者数3,813人で単純に割ると、1回当たりのコストがかなりかかっていると思うが、人数が増えてくればこれは減ってくると思うが、他は何にコストがかかっているか。

・来年の4月にかりんちゃんバスを減便するとあったが、チョイソコが積極的にうまく形で盛り上がってこない、本当に免許証を持ってない人は大変な世界になると感じた。

(担当課)

・予算の内、AIシステムの構築費が大きい。来年度以降も、AIシステムの管理費は継続して発生する。他には、チョイソコのドライバーの人件費や燃料費等が掛かる予定。しっかりと利用者数を伸ばして、運行単価を下げることが大事だと考えているため、再編での切り替えがスムーズにできるように丁寧に進めていく。

(C委員)

・既に他の自治体で実施していることの横展開だとすると、コストダウンできる部分もあるかと気になった。茅野市では先行して実施しており、恐らく違うシステムが使われているかと思うが、このようなものはできるだけ大きくまとまって交渉する方が、マスメリットが生きるというのが世の中の鉄則。人口も減ってくるし、自分のところだけでそれをやるみたいな形じゃなくて、人口18万人だと、そういうようなことで交渉するとか。木曾の方でも交通をまとめてやる動きがあるしもっとダイナミックに動かないとインパクトが弱いし、高齢者にとっては本当にこれから大変な世界になってくると思う。

(担当課)

・確かに隣の茅野市は先行してやっている。同じオンデマンド交通でも茅野市と異なるのは、利用者が乗車する場所で、諏訪市の場合は、市内約300ヶ所のバス停を使い、そこを乗降場所としている。茅野市の場合は、仮想バス停ということでバス停は特に無く、ほぼドア to ドアでやっている。そういった違いもあり、諏訪市の運行形態に即したシステムを導入したため違いが生じている。

(E委員)

・KPIの部分で聞きたいが、私も高齢者の免許返納者数がここでカウントされることに違和感は覚えた。会員登録者数こそ定量的に評価するものではないかと思うが、どういった理由でここに入れていないのか。

(担当課)

・会員登録者数は大事な指標だと考えている。利用する人はまず登録した上での利用になるため、乗車に繋げるという意味ではまず登録者数を伸ばしていくことが大事だと思っている。

・免許返納者数をKPIに設定したのは、チョイソコの利用者を分析すると60歳以上の方が非常に多いため、免許の返納者が実際にチョイソコの利用者に繋がると考えた

ころがある。しかし、指摘いただいているようにそれがぴったりチョイソコの利用者と一致する指標ではないため、この点については今後考えていこうと思う。

(E 委員)

・ 商売柄物事を斜めに見る癖があり、会員登録数はあえて評価せず、一見相関関係があまりないのではと思われるようなものを、入れることで数字を美しく見せたいのかなというような見方もされなくはないと思った。

(D 委員)

・ 免許返納の数字をここに載せることに大変違和感があり、免許というのは個人の資格であるため、そもそもこれを公が返納しなさいということ自体に違和感がある。乗る乗らないは本人の判断である。免許証を返納したから必ずしも乗らないかということではなくて、他に交通手段が無いエリアでは軽トラを運転せざるを得ないような状況になれば資格がなくても乗るしかない。これがすぐに違反になってしまうため、そういう意味では免許証返納というものは強制すべきではないと基本的には思っている。そのため、これを指標にするのは、やはり違和感がある。

・ 満足度については、バス停の数も影響すると思うが、バス停を増やしていくということになれば、基本的には茅野市と同じことになる。バス停についての考え方や設置基準をきちんと作ってもらうということが必要で、それを住民に広く啓蒙をするということが必要だと思う。

・ 便利さというものはそれに越したことはないが、自分の要求を通したいのが一般の利用者であるため、設置基準というものを作っていかないとまずいかなと思う。乗合率が非常に大事で、本来であればかりんちゃんを使っていたが、チョイソコを使えば直接目的地まで行くことができ歩く距離が短くなったり、本来であればタクシーを使わなければならなかったがチョイソコ利用することで金額が安くなったりすれば当然満足度が上がる。

・ 市とすれば管理費や運行費がかかってくるため、今後においては乗合率というものをもう少し重要な指標として捉えるべきであり、利用者に説明をする際にもそのことをきちんと説明をすべきだと思う。満足度についてもその中身の違いという点で検証をしてもらいたい。安い料金で目的地まで行けるから満足だということだけではまずいため、満足度がどういう満足度なのかということにももう少し踏み込んでもらいたい。

(担当課)

・ 今いただいた意見については、アンケートの項目の中に盛り込みながら、どのような人たちがどういう意見を持って利用したのか、把握を続けていきたいと思う。

・ バス停の設置基準については必要だと思っている。むやみに増やすことにならないよう、基準を設けてそれに沿って本当に必要なところに増やしていきたいと考えている。

(A 委員)

・地区ごとの利用者の統計は何か取っているか。地区ごとでの利用者がどんな層で、どういう目的で使われているのかというのは、このテスト期間中も含めてどうなのかなと気になった。上諏訪地区は停留所が非常にきめ細かに配置されているが、他の地域に行くとなかなり粗めになっている。公平感の観点からどう考えているか伺いたい。

(担当課)

・地区別について、会員登録の際に自分の住んでいる地区を入力してもらうようになっているため、どの地区の人の利用が多いといったデータでは取れるようになっている。

・既存のかりんちゃんバスのバス停を使うため、上諏訪地区は他の地区に比べ確かに多い様に見える。これからバス停が本当に必要なところには増やし、拡充していきたいと考えている。

(A 委員)

・会員登録数が少ない地区に対しては、逆に市役所の方から出前講座をこの地区でやりたいというように提案していくことはどうか。出前講座だと市民の方から要請があって出かけるという形だと思うが、できれば行政の方から分館まで含めて対象にしながら、スマホの利用の仕方等も一緒に説明していけば登録数も増えていくと思う。

(担当課)

・参考にさせていただき、こちらの方から声掛けをしたいと思っている地区、またサロン等も含めて、細かな単位までやっていきたいと思う。

(I 委員)

・今回のこの事業の実施によって解決を図る課題の冒頭にもあるように、本来の課題は、12 路線ある中でどの路線に乗れば良いのかがわかりづらいとか、そういう課題が挙げられているところであるが、課題解決よりもまずこういう AI オンデマンド交通システムを導入するんだということが先行してしまっているという印象があり、そういったことも踏まえると今回の事業効果については、示し方に数値的・客観的な根拠が示されておらず、こういう感想があったという程度に留まっているところが、本当に効果があったのかという点で疑問があるのかなというような感じがした。

・あらかじめ設定されている KPI の指標の項目については、これは変更できないものであると思うし仕方がないと思うが、指標についての疑問点も指摘されているところでもあり、こういう判断理由に至ったと担当課が思うならば、もう少し数値的な部分でしっかりその効果があったというように示せる書き方をしてほしい。

・高齢者の方は交通弱者であると同時にやはり IT、デジタル弱者であるという点についてはどうしても一緒に踏まえて考えていかなければならない。今後この公式的な KPI とは別にしても担当課で、その点も踏まえてより多くの高齢者の方が利用できるような取組をしてほしい。

・他の自治体でもこういったAI オンデマンド交通への関心が非常に高まっている。そこまでいくには、まだいろいろな課題があると思うが、利用者数が増えると今度はなかなか予約がしづらいということもよく聞かれる。今後多くの方に利用してもらうためには、利用しやすい状況にしなければいけないと思うが、現在チョイソコは何台あるのか、今後利用者が増加した時にその台数を増やすことが可能なのかそういった展望を聞きたい。

(担当課)

・現在3台で運行している。台数については、運行状況を見ながら増車することを考えている。実用台数は検証する必要があるが、かりんちゃんバスの路線が再編され、チョイソコの需要が高まれば、必然的に増車が必要になってくると考えている。

(担当課)

・現在3台で運行している。台数については、運行状況を見ながら増車することを考えている。実用台数は検証する必要があるが、かりんちゃんバスの路線が再編され、チョイソコの需要が高まれば、必然的に増車が必要になってくると考えている。

(G 委員)

・先日チョイソコに登録をした。平日の昼間に利用は限定されるが、車を出すのが面倒な時などに利用したいと思っている。市民のみならず観光客等の来訪者も含め、誰もが移動手段に不便を感じない持続可能な公共交通ということだが、今後かりんちゃんバスの再編がある中で、例えば朝夕の通勤通学時間の便だけは減らさないとか、何かそういったような考えがあれば聞きたい。

(担当課)

・かりんちゃんバスの再編計画については、朝夕の通勤通学の時間帯は、高校生や会社勤めの方の需要が多い時間帯になるため、定時・定路線を残していく方向で考えている。日中についても需要の多い路線、病院への通院や買物のための生活路線等の需要の多い路線については残し、需要の少ないものについてはこのチョイソコでカバーすることで、かりんちゃんとチョイソコと二つの組み合わせで利用者の需要をカバーしていくように計画をしている。

(委員長)

・このAI オンデマンド交通システム導入事業についての担当課の評価は、事業効果は「③の課題解決に効果があった」、今後の方針については、「②事業内容の見直し改善」であるが、これを委員会としてこの効果検証の結果としてよろしいかどうかを挙手で判断をしたい。

(※挙手4名)

(事務局)

・この評価の方法については、国の評価の基準で示された選択肢になっており、この中で決めるという中で、担当課としては事業効果については④の効果がなかったとい

うことはないだろうということで③にしたと思う。外部検証委員会の総意としての結論をこの会の中で決めていただきたい。また、KPIについては、この指標を設定して国から交付金を受けており変えることはできないが、当然担当課の方は先ほどからいただいている意見等を、指標に加えながら検証をして継続していくということが必要になってくる。

(I 委員)

・KPIについては、3つの指標は高い数値になっている。それを考えると効果があったと判断することができるかと思う。判断理由に関しては、数字などの客観的な根拠を入れて少し詳細に示してもらえると良い。

(事務局)

・今後議会やHPで公開していく検証結果のシートは、外部検証委員会の結果を受けて担当課において最終判断をし、その判断理由を記入する仕様になっている。その中に、この会でいただいている意見を載せていく形になる。そのため、外部検証委員会としての判断結果も掲載されることを踏まえつつ議論していただきたい。

(E 委員)

・効果があったというのは主観的な判断で良いか。例えばアプリまたはWeb予約数は、目標達成はしていないが、ゼロよりは効果があるとは思う。でも事業の実績額から考えたら難しい。

(委員長)

・判断については、委員それぞれの判断になる。①～③については、プラスの方向の判断であるが、担当課にはこの会の中で出た様々な意見を踏まえて、今後見直しながら進めてもらうとした上で、①～④の中からこの会の中で選ぶとすればどう判断をするかと考えてもらいたい。事業効果としては「③課題解決に効果があった」、今後の方針については、「②事業内容の見直し（改善）」を委員会での効果検証結果として良いか。

(※挙手多数)

(2) 第六次諏訪市総合計画に基づき実施した事業の効果検証について

事業1 介護予防普及啓発事業

《資料4に基づき担当課より説明》

(G 委員)

・KPIの目標2,000人というのはどのように決めた数字なのか教えていただきたい。また、その実績は参加した高齢者の累計で2,300人なのか、実人数として2,302人なのか聞きたい。

・フレイル教室は様々な教室があって選ぶ側からすると楽しみになると思う。これは様々な企業や団体が、講師をしているが、諏訪市側からこんな講座を開きたいと企業側にアプローチするのか、それとも業者側からアプローチがあって講座内容を決めていくのかその点を伺いたい。

(担当課)

・KPIの2,000人については、平成27年からの数字を調べてみたところ、2,000人台で推移している。コロナ禍においては、令和2年に1044人、令和3年は954人まで落ち込んだと。このKPIの目標値を決めるのは、コロナ禍であったため、まずはコロナ禍前の水準まで回復をさせるということが担当課の考えであり、2,000人という数字を設定した。

・実績の2,302人は延べ人数であり、実人数としては450人というところで、内男性が1割ほどで、残りが女性。450人が全10回の教室でそれぞれ何回か参加した結果として、延べ2,302名が参加した。

・講座内容については、市民からの意見や事業者からの提案を含め、市が考える目的と照らし合わせて、できるだけ様々な講座を企画している。市内のフィットネスクラブに訪問し市の目的を伝える中で共感してもらい、講座の提案があった事業者にも今年度から新たな教室を担当してもらっている。また、お年寄りの集いというイベントも開催しているが、昨年度参加いただいた講師が非常に魅力的だったため今年新たな教室を設けた。こちら側の想いと事業者側からの提案を合わせ、魅力的な教室になるように努めている。

(B委員)

・65歳以上が対象ということだか教室には、どれくらいの年齢の方が参加しているのか。自分はまだ大丈夫と考える方が大半だと思うが、そういった人の意識をどう変えていくかが大事だと思っている。

(担当課)

・参加いただける80歳手前くらいの方が多い。自分はまだ大丈夫と考えている人については、主治医から勧めてもらうことで意識は変わるのではないかと考え、今年度よりかかりつけ医から背中を押してもらうような取組を実施している。

(I委員)

・ますます高齢化していく社会は避けることができないため、このような取組はとても良いことだと思う。これから恐らく社会保障費がどんどん増えていくことを考えると、介護状態になる前に予防していくことが大事で、多くの方に利用してもらうことがこの事業の最終的な目標だと思う。それを踏まえると延べ人数というよりも、新しい人の掘り起こしという部分を具体的に考えてもらいたい。

・説明を聞いていてなるほどと思ったのが、介護予防教室の参加者の内女性が圧倒的に多く、男性が本当に少ないということ。女性の方が平均寿命は少し長いとはいえ、

そこまで男女比で大きな違いはないと思う。このような教室は、男性の方が苦手というような指摘がされている中で、そこをいかにして参加してもらうのか、具体的な提案を考えてもらいたい。

・ぜひこれも実現させてもらいたいというのは、チョイソコの担当課と連携体制をとってもらうこと。

・チョイソコの利用者数も増え、介護予防普及啓発事業においてもより多くの方々のご利用にも繋がると思う。よく言われる行政の縦割りではなく、チョイソコの担当課とも調整の上で両方にとって効果的になるような仕組み作りを考えてもらいたい。

(担当課)

・現在の延べ人数での目標値の設定ですが、今後新たに KPI を設定する際には実人数や男女比についても検討していきたいと考えている。

・介護を含め高齢者福祉について、今後 19 市で話し合う場がある。県内他市でも同じような課題があると捉えているため、他市の意見を聞きながら、男性の更なる参加を促す方法を検討していきたい。

・チョイソコ担当課とは話し合いの場を既に設けているが、両課にとって更に効果的に進められるよう連携強化を図っていきたい。

(A 委員)

・カレンダーを見ると、申し込みが必要な教室①～④については、申込期間が既にほとんど終わっているが、開催日時は 10 月まであるものもある。申し込み期間について再検討や少しでも伸ばしてみる等の考えはあるか。

・開催場所についてはいきいき元気館が多く全体的に偏っている印象がある。他の 4 条例館の利用についてももう少し検討した方が良いかと思う。

(担当課)

・事前に申し込みが必要な教室については、1 コースが全 15 回となっている教室等があるため、年度当初に募集をして長期で通ってもらい改善していくという内容。

・会場については、特に夏の期間は参加者の体調のことを考え、冷房がある施設で開催をするようにしている。また、4 条例館についても均等に開催していたが、人の集まりが良い地区悪い地区あるため、少ない地区についてはとちの木広場に振り替えをする等、より多くの方に集まっていただける教室としている。

(委員長)

・担当課による事業の説明を受けて、「A 現状のまま継続」をこの委員会としての評価としてもよろしければ挙手をお願いします。

《挙手多数》

事業 2 種まくブック事業

《資料 4 に基づき担当課より説明》

(F 委員)

・素晴らしい事業だと思う。令和6年度は何人に配布し、必要経費が243,000円に対する費用対効果はどうだったか。実数とそれに関わる経費というところでデータがあれば示してもらいたい。

(担当課)

・経費について、パンフレットを印刷してそれを対象者に送付する郵送料が毎年かかる。書籍代は申し込まれなかった人の分だけ余る形になっている。郵送料の方は、最初に4万円ほどで、申し込みが振るわなかった場合は、2回目の通知発送に2~3万円程掛かるため、トータルで6万から7万程になる。そこに書籍代が別途掛かってくる。費用対効果に関しては、すぐにお答えできないが、6年度は対象者が440人でその内130人にプレゼントした。

(G 委員)

・一般的に高校は、例えばポスターを貼ってほしい等の協力依頼をすれば対応してくれるのか。

(担当課)

・ポスターに関しては、各校の図書館等にポスターを貼ってもらうことや関連コーナーを作ってほしいと依頼している。また、諏訪郡内以外の高校に通っている人も居るため、全員にというわけにはいかないが、各高校に依頼し、高校3年生向けにメールの配信を依頼する取組をしている。

(A 委員)

・対象者の実数についてはどのように把握しているか。

(担当課)

・18歳になった方のみだが、令和4年度は制度の切り替え時期であり、漏れる人がいないよという事で18歳~20歳になる人を対象にして1,200人程だった。R5~7年度は440人としている。

(A 委員)

・目標値の%はR6~R8まで40%が続いている。最近読み書きをする機会が減ってきていると言われていることもあり、非常に良い取組だと思う。より多くの人に読んでもらえるように進めてもらいたい。

(E 委員)

・素晴らしい事業だと思う。活字を一切読まない人は必ず居てこれはしょうがないこと。訴求をどうしたら良いかということに関して、そもそもDMを読まない人は本も読まない。SNS等、デジタルの媒体で訴求したとしても読書という行為と、果たして親和性があるのかという問題もある。KPIについてもむしろ目標なんて設けない方がいい良いのではと思う。予算がこれだけあるのなら、例えば本の単価を上げるとか、欲しい人に2冊まで配布するというようにした方が良いのではと個人としてはそう思

う。読書を悪いことだと言う人は世の中にそうはいないと思う。ぜひ継続してほしい。

(担当課)

・この KPI の設定にも苦労したが、当然多くの人に手に取ってほしいという思いがありながらも、数字に表れない効果もあるだろうとも思う。いただいた提案も含めて今後検討していきたい。

(I 委員)

・山梨県にある短期大学の教員をしているが、諏訪出身の学生もとても多く、この事業についてちょっと聞いてみようと思ったことがある。この事業は素晴らしい取組で、こういう自治体がもっと増えれば良いと思う。

・KPI にも示されているように、令和 8 年まではできる限り多くの 18 歳に届くような、高校に行っていない人や働いている人も含め、何とか幅広い方法で取り組んでもらいたい。

・本事業は岩波書店という誰もが知る、伝統ある出版社と関わりがある自治体を実施している素晴らしいものであるため、ただ単に本を配るだけでなく、せっかくなのでそのストーリー性も踏まえて、結果的に諏訪市にちゃんと愛着を持ってもらえるような展開も今後検討いただきたい。

(担当課)

・現在 18 歳を対象にしているが、もう少し若い世代からこの取組を知ってもらいたいという考えがあり、小中学校の学校図書館に信州風樹文庫、岩波書店を知ってもらうためのコーナーを作り、種まくブックのことを紹介する取組も始めている。

(G 委員)

・本当に素敵な取組であると感じた。私自身に子供が居ないこともあり、この事業はあまり知らなかった。

・高校生が集まるイベントでの PR も非常に良いと思うが、周りの大人から「18 歳だから今年本がプレゼントされるね。」というように周りからの声掛けで「ああそうだ。私、今年だ。」というルートでの周知もいいのかと思う。高校生だけではなく、様々な年齢の人が集まるところに周知のポスターがあるのも良いと思う。

・本をもらって終わりではなく、新成人の方が諏訪市に対するメッセージ的なものを送ってくれる仕組みがあると当事者以外の市民も「こういったことを感じている若者がいる」と知る機会になると思うので検討していただきたい。

(担当課)

・本を送る際には、感想など送ってもらえるように電子申請用の QR コードをつけているが、6 月に送ったばかりでまだ感想は出てきていない。今後出てくることを期待している。

(委員長)

・担当課の評価は「Bの手段改善の上継続」であるが、この委員会としても、「B手段改善の上継続」を評価としてよろしければ挙手をお願いします。

(I 委員)

・ちょっと迷っている。事業としてはよくやっているのではないかと思う。私はAということでもいいのかなど思っている。

(E 委員)

・Aは「現状のまま継続」で、Bは「手段改善の上継続」となっているが継続という意味では同じである。どちらかと言えばAの方が良いと思う。

(C 委員)

・私は学生の際は風樹文庫に本当にお世話になり、今も月に1回程利用している。この事業は諏訪をアピールするととても素晴らしい機会だと思う。改善すれば更によくなるという意味で、「B手段改善の上継続」の方がふさわしいと思った。

(I 委員)

・改善に取り込まれるという意志は、今後の取組の方向性にもきちんと書かれているため、委員会で一つを選ぶとすればAでも良いと思う。

(事務局)

・今後表に出ていくのは、①本日の検証委員会の前の担当課の自己評価、②この委員会としての評価、そして今日の議論も踏まえ担当課あるいは内部の検証委員会等で確定していく③最終的な担当課の評価。①～③はそれぞれ独立した形で残る。

(委員長)

・この委員会の中で評価を一つ選ぶとすれば、先程Aの方が良いといった意見が多かったが、改めて「A現状のまま継続」をこの委員会としての評価としてよろしければ挙手をお願いします。

※《挙手多数》

事業3 スマート IC 整備事業

《資料4を基に担当課より説明》

(I 委員)

・住民の皆さんの理解を得るために丁寧な説明に務めたとのことだが、具体的にどういった方法で住民へ説明し、理解を得たのか補足いただきたい。

・事業概要という補足資料は、実際に住民に対する説明で使われた資料か。

(担当課)

・まず対策委員長を通じ委員へ説明をし、必要に応じて地元の公民館に出向いて、工事説明会を実施した。岡谷市小坂区へは必要に応じ対話をし、テーマを説明する中で理解をいただきながら事業を推進してきた。補足資料については、約1年前に市ホームページに掲載したもの。

(I 委員)

・冒頭で説明のあった、救急搬送の時間短縮になるといったことこそ住民に対する安心安全の効果として強調できる点。今後ぜひそこも強調されたいと思う。

(A 委員)

・説明の中で R6 年度までに既に 550m 整備を終えて残りが県道の 30m とあったが、実績を見ると R4 からの合算で 540m となっている。残りの 10m はどの部分か。

(担当課)

・R6 年度までの整備延長は資料にある 540m で正しい。残りは県道の 40m と先ほどの説明を訂正する。

(C 委員)

・整備延長を KPI に設定するのはどうなのかなと思った。例えば、住民に丁寧に説明した等そういったもの使うのは判るが、やらなければならないことに対してどれだけ進んだかというものを KPI に設定するのはどういった理由からか。単純な数字のことだけであれば委員会の中で審議しなくてもデータだけもらえば良いと思う。

(担当課)

・スマート IC の場合については、ゴールがありスケジュール、延長が決まっている中で、そこに対する進捗状況ということで設定した。

(B 委員)

・スマート IC の開通で観光等の開発にも繋げるという中で、諏訪湖周サイクリングロードを活用した連携強化とあるが、具体的にはどんなことを考えているか伺いたい。私も一度したことがあるが、実際はなかなか活用されていない実態があると感じた。

(担当課)

・関係課との協議や、また民間の活力を借りながら、そういった形で連携をしていくことを考えている。具体的にこういうことをするというのはこれから検討していく。

(G 委員)

・7月27日に運用が開始されるということで事業としては、7年度中には目標も達成し終了になると捉えたが、このスマート IC 整備事業が継続するというのはどういう捉え方をすれば良いか。

(事務局)

・本日の委員会では、6年度の事業が終了した時点での評価がどうだったのかというところでの評価をしていただく。したがってこの事業は7年度にもまだ残っており、継続するというところで理解いただきたい。

(G 委員)

・例えば評価として「大幅な見直し」としたとしても、スマート IC の整備内容は変えることはできないと思う。評価の視点を伺いたい。

(担当課)

・スマート IC が開通してからでないと実際にどのぐらいの効果があつたのか測るのは難しいと認識している。一方で開通後の 2,030 年度の交通量は 1 日あたり 3,600 台ということで推計している。岡谷 JC から諏訪 IC の 1 日あたりの交通量が 32,000 台程であり、その内の 10 分の 1 が利用した場合で推計している。現時点ではこの KPI としているが、引き続き開通後にもそういった動向や経済効果、そういったものに着目をする中で市内連携しながら、効果を検証していきたい。

・今回の工事は NEXCO や岡谷市等も含めて実施している事業のため、大幅な変更は難しかったと思う。そのような中で、脆弱な地盤への対応等をしながら進めてきた。6 年度を終えた時点でこのまま無事に開通させたいという意味も含めて、「A 現状のまま継続」とした。

(委員長)

・担当課による事業の説明を受けて、「A 現状のまま継続」を、この委員会としての評価としてよろしければ挙手をお願いします。

※《挙手多数》

事業 4 諏訪湖イベントひろば整備事業

《資料 4 を基に担当課より説明》

(A 委員)

・この事業はどこまでを指しているのか。8 年度の建屋の解体は含まれるのか。KPI の 5 社というのは、どこまでの業者のことを指しているのか伺いたい。

(担当課)

・事業としては、令和 3 年 9 月に策定した基本計画をもとに、そこに掲げた「もの作り産業振興分野を主軸にした新たな価値創造を実現するための取組を進める」というようなかなり抽象的な表現ではあるが、イベントひろば全体が完結するまでとしている。基本計画策定時には、これから本公募に向けてサウンディング等をやるにあたり、どれだけの事業者が参加するかを KPI として設定した。5、6 年度の必要経費も土壌調査関係の経費のため、これと KPI は直接リンクしていないが、これを定めた当初は、整備に向かって動いていたため、この場所を研究に使いたい事業者やホームセンター等が手をあげてくることを想定しこの KPI を設定した。

(A 委員)

・建屋を解体し更地状態にした後に、その土地で事業をやりたいという事業者がどれだけ手をあげてくるかという KPI ということで良いか。

(担当課)

・認識の通りで、シート表面の事業の手段にある「公募」をする際に応募してくる業者の数としている。

(A 委員)

・R8年度の建屋の解体まではだいたいわかるが、その後についてはどう考えているか。

(担当課)

・この先上諏訪駅周辺一体的整備の三つの大きな事業がある。①文化センター②駅の西口、その次に③イベントひろばになる。文化センターは今年度着手し始めたところで、国の補助を受けながら進めている。この国の補助は同じエリアを重ねることができないため、まずは文化センターを7~9年度の3年間で整備する。その次に補助を受けてできる事業が駅の西口整備で、10、11、12年度での実施を予定している。イベントひろばはその後に位置づけているが、公募要領の作成等は同時進行できるため、文化センターや西口の整備ができる。基本計画策定からだいぶ経っているため、見直しながら必要な公共施設がどのようなものなのか等を固めていく必要があると考えている。

(B委員)

・広大なこの土地をどうやって活用していくのか市民としてもすごく気になる。例えば、工場が建つのかショッピングセンターのようなものが建つのか、それによって街の雰囲気が大きく変わる。市としては、その点についてどのように考えているか伺いたい。

(担当課)

・基本計画の中では具体的に何をやるということは記載していないが、イベントひろばに導入する機能の案が掲げられており、その中に産業振興機能、観光機能、コミュニティ機能等が上げられており、産業振興機能は市が、コミュニティ機能であれば民間事業者が整備するのが望ましいと示されている。これだけの場所を市だけで整備するのは難しいため、整備方針の検討・策定をする段階では、いろいろな声を聞いて進めたいと考えている。

(B委員)

・今説明のあった機能を全て網羅したような施設ができるといいなと思う。スマートICが開通することもあり、観光や産業振興に寄与することと高齢者の対策にもなるため、道の駅のようなものができると良いと思う。魅力的な道の駅は全国に多くあって、そこには人も車の流れも生まれている。また、コミュニティのスペースができるとすれば、高齢者も行きやすいと思う。

(担当課)

・この策定当時から建設物価はかなり上昇しており、またスマートICの開通、インバウンドが増えているという状況変化もある。このような外部環境の変化も実際整備を検討する際には織り込んでいく必要があると考えている。

・ある程度民間が収益性を持てる事業や施設を置かないと、民間活力の活用だとか民間資金の活用がかなわないと思っている。当然その中の選択肢の一つには道の駅も出

てくると思う。ただ全国の道の駅を見ると、行政が建てた道の駅もあれば行政が関与しない道の駅もある。道の駅一つとっても行政の関わり方は様々であるため、そういった点も含めてこれからの基本方針の策定や、民間の活力の活かす方法の議論を深化していく段階で、いただいた意見を当然念頭に置きながら進めていく。

(G 委員)

・今の段階でこれまでこの事業に対して、事業者からはどのような相談や問い合わせがあったか伺いたい。

(担当課)

・基本計画を作る前段階で、民間事業者へこの場所ならどのような活用ができるかという比較的抽象的な条件の中でサウンディング調査を行った経過があり、複数の業者から手を挙げてもらった。6年度の実績にある2社については、当時提案を受けた2社で、その後の事業の動きなど問い合わせもあった。事業者はそれぞれに思惑があって、こういったものを造りたいという想いを話していく業者もある。

(G 委員)

・公募要領が出ないと事業者は手をあげられないか。

(担当課)

・このKPIの部分だけで捉えるとそういうことになる。ただしサウンディングについては、実際公募していくまでに何回実施しても良い。今のまま公募に入っていくという考えは無く、以前一度行ったサウンディングは非常に抽象的な条件の中で行ったものであったため、整備の基本方針ももう少し具体的に定め、その上で最低もう1回はサウンディングが必要だと考えており、その中で応募する業者が出てくるものと考えている。

(G 委員)

どんな施設ができるかでイメージは大きく変わっている。良い計画になるように進行してもらいたい。

(委員長)

・担当課による事業の説明を受けて、「A現状のまま継続」をこの委員会としての評価してもよろしければ挙手をお願いします。

※《挙手多数》

8 その他

(※事務局より事務連絡)

9 閉会

(副委員長)

- ・本日 10 時半からということで非常に長時間の議論であったが、非常に活発な議論が行われたと思う。
- ・中にはかなり執行各部局に厳しい意見もあったが、本日出た意見を施策に反映していただければと考えている。
- ・それでは令和 7 年度諏訪市総合計画外部検証委員会を閉会する。
- ・皆様お疲れ様でした。